



平成 29 年 3 月 15 日

今週に入り、発熱や咳の症状でのお休みが増えています。RS ウイルスと診断されたお子さんもいます。咳などの症状が長引いているなど、気になる症状が続いている場合は医療機関に受診することをお勧めいたします。

乳幼児が感染すると、25～40%に細気管支炎や肺炎などがみられ、重症化することもありますので、咳（せき）が強くなったり、呼吸がゼーゼーと息苦しい場合は、早めに医療機関に受診することが大切です。

3月15日現在の欠席状況

RS ウイルス感染症	2名
発熱・咳の症状による欠席	うさぎぐみ 7名
	ひよこぐみ 4名

園でも手洗い・うがいを励行し、園内の消毒を行い、これ以上感染が拡大しないように努めていきます。咳症状がある場合はマスクの着用をお願いします。

RS ウイルス感染症

【症状】

4～5日の潜伏期間の後、鼻水、咳、発熱などのかぜに似た症状が現れます。通常は1週間前後で回復しますが、なかには肺炎や気管支炎を発症する子どももいます。特に心肺の基礎疾患がある子は重症化しやすいので、注意が必要です。乳児も重症化しやすいと言われています。手洗い・うがいをしっかり行い予防しましょう。

気管支炎や肺炎などを起こすウイルス感染症で、冬場に乳幼児の多くが感染します。終生免疫ではなく、2歳までにほぼ100%感染すると言われているため、毎年かかる子どもも多いようです。

症状が軽い場合は、水分補給、睡眠、栄養、保温に注意し、安静にして経過を見ます。たんがかたくなり吐き出すのが困難になるので、水分をこまめに与えましょう。

